

# 天竜区 熊地区くんまにおける民間口承文化財（昔話）の調査・記録・公開による地域文化の保存と継承

静岡文化芸術大学 文化政策学部 二本松康宏ゼミ

指導教員：教授 二本松康宏

参加学生：3年生 鈴木実咲、滝澤未来、服部奏、廣濱波貴

4年生 小鍋未羽、佐藤菜々美、藤井七海、望月花鈴

※4年生はサポート

## 1 要約

浜松市天竜区熊地区における民間口承文化財（昔話）の採録調査により、地域文化の保存と継承を目指す。地域に伝わる伝説や家庭に語り継がれた昔話は、その土地に生きた人々の心と記憶の遺産である。しかし、近年の加速的な高齢化と過疎化によって、そうした民話の伝承は急速に消え去ろうとしている。それは、民話の伝承とともに受けつられてきた地域アイデンティティの危機でもある。民間口承文化財（昔話）の記録と保存、公開と継承は地域アイデンティティの再生と文化財保護の観点において緊急の課題である。静岡文化芸術大学 二本松康宏ゼミ（伝承文学ゼミ）では、これまでに浜松市天竜区水窪町（2014年度～2016年度）、同区龍山町（2017年度）、同区春野町（2018年度～2023年度）において民話の採録調査を実施してきた。これまでの調査成果は年度ごとに書籍として刊行し、新聞やテレビ、ラジオ等に紹介され、学術成果としても日本昔話学会等において高い評価を受けている。

そうした実績を引き継ぎ、2024年度は天竜区熊地区（熊、神沢、大栗安）において同様の採録調査を実施した。採録した民間口承文化財（昔話、伝説、世間話、言い伝え）は学術的な位置付けや記録価値を検証し、口承文化財としての保存（アーカイブ）を目的として「方言のまま」「語り口のまま」に翻字・記録する。伝承地域の解説を書き添え、書籍としての公開（刊行）を目指す。

浜松市天竜区熊地区

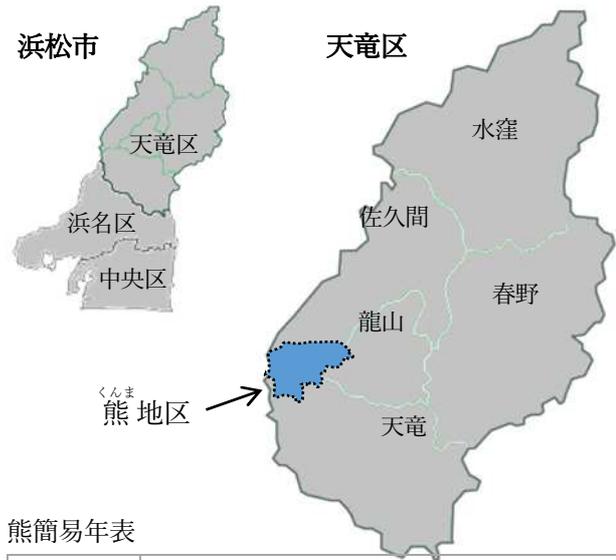
世帯数 201 世帯

人口 428 人

65歳以上 253 人（高齢化率 59.1%）

14歳以下 19 人（4.4%）

（2024年10月1日現在）



熊簡易年表

大字	自治会	自治会 世帯数	住民基本台帳	
			世帯数	人口
熊	石 打	14	125	249
	柴 ・ 沢 丸	16		
	峯 ・ 熊 平	24		
	大地野・坂野・寺平	19		
	向	11		
	市 場	14		
神 沢	旭 ・ 引 田	14		
	神 沢 東	25	44	97
神 沢 西	19			
大栗安	大 栗 安	28	32	82

明治 22 年	神沢村、大栗安村が熊村に合併して「熊村」が成立
昭和 31 年	熊村、上阿多古村、下阿多古村、龍川村、光明村が二俣町に合併して「二俣町」が成立
昭和 33 年	二俣町が市制に移行し、天竜市となる
平成 17 年	天竜市が浜松市に編入
平成 19 年	浜松市が政令指定都市に移行し、旧天竜市は天竜区に

## 2 研究の目的

### (1) 昔話の調査と研究の現状

日本各地の山間地域では極端な高齢化と過疎化が進み、かつてのように昔話を語り伝える人々は急激に減少している。それは地域におけるコミュニティとアイデンティティの危機でもある。1970年代から1990年代前半にかけては昔話研究懇話会（日本昔話学会）や日本口承文芸学会を拠点として、多くの大学のゼミや研究会によって組織的かつ本格的な昔話の採録調査が展開され、調査報告書の公刊が相次いだ。しかし2000年以降は、そうした調査がきわめて困難になったといわれる。

**背景1.** 「お年寄り」の減少 → 高齢者は増えたが、戦後の高度経済成長を支えて働いてきた人たちは昔ながらの昔話を語るような「おじいちゃん」「おばあちゃん」ではなくなった。

**背景2.** 少子化の影響 → 山間地域では極端な少子化が進み、孫と同居する高齢者が減ったため、高齢者は自分が幼少期に聴いた昔話を孫に語る機会がなくなった。現役の語り手ではなくなった。

### (2) 熊地区におけるこれまでの取り組み

1987年（昭和62年）には「上阿多古草ぶえ会」が編纂した『ふるさとものがたり天竜』が自費刊行されている。同書には熊地区に伝わる伝説も掲載されるが、その大半は脚色性が認められ、口承文化財の記録としての価値・評価は限定的と言わざるを得ない。

## 3 研究の内容

### (1) 調査の方法

#### ① 採録調査（集団採録と個別訪問）

- ・ 自治会を単位として高齢者に呼びかけ、最寄りの集会所などに集まっていただく。
- ・ 目安としては1集会所につき6人～12人くらい。男女比は半々が目安。
- ・ 集団採録で見出された語り手については、個別に訪問して採録を継続する。

#### ② 翻字

- ・ 採録した民話を「語りのまま」「方言のまま」に翻字する。

#### ③ 補足調査

- ・ 民話を語り伝えてきた背景にある「暮らし」にこだわる。

### (2) 調査の記録

1	6月1日（土）	峯、熊平、大地野、坂野・寺平	11	10月26日（土）	補足調査
2	6月8日（土）	個別訪問	12	11月9日（土）	補足調査
3	6月15日（土）	向、旭・引田、市場	13	11月17日（日）	補足調査
4	6月22日（土）	石打、柴・沢丸	14	11月30日（土）	補足調査
5	6月29日（土）	個別訪問、大栗安	15	12月7日（土）	補足調査
6	7月6日（土）	個別訪問	16	1月3日（金）	補足調査（懐山）
7	7月13日（土）	個別訪問、神沢東	17	1月8日（水）	補足調査
8	7月20日（土）	神沢西、個別訪問	18	1月9日（木）	補足調査
9	8月3日（土）	個別訪問	19	1月22日（水）	補足調査
10	8月4日（日）	個別訪問	20	1月25日（土）	補足調査

※ 上記の他、9/9(月)、11(水)、12(木)、12/5(木)、14(土)、15(日)、27(金)に浜松市立天竜図書館での資料調査

### (3) 採録調査の様子



### (4) 採録の成果

約 120 名の高齢者と面会  
 話者カード登録 107 名 昔話 72 話、伝説 91 話、世間話 60 話、言い伝え 71 話、計 294 話を採録  
 41 名の語り手による昔話 29 話、伝説 25 話、世間話 16 話、言い伝え 20 話、計 90 話を書籍に掲載予定

#### ※【参考】民間口承文芸（民話）の分類

昔話	時代と場所を特定しない（むかしむかし、あるところに）。家庭内で「子どものおとぎ話」として語り継がれてきたため、他人の前で話すのは恥ずかしいこととされがちで表に出にくい。
伝説	時代や場所を特定し、その土地では歴史的事実のように信じられている。伝説をよく知る人は、その地域で「古老」「ものしり」として知られているため、採録調査は比較的容易。
世間話	自分自身や近親者、知人などを取り巻く地域やコミュニティのなかで、「体験談」や「噂」として語り伝えられる。近年の「都市伝説」や「学校の怪談」もこの範囲に含まれる。
言い伝え	習慣や習俗、謂れなど。ストーリーを持たない。

### (5) 「語りのまま」「方言のまま」－ 民間口承文化財

近年では「語り部」として小学校や図書館などで昔話を語り聞かせる活動が広まっている。しかし、そうした活動では子どもにもわかりやすく標準語化され、あるいは再創作（再話）された話が大半を占めている。昔話や伝説は地域と家庭に伝えられた文化遺産である。標準語化や再創作は、いわば文化財の改竄に等しい。未来に伝えなければならないのは「語りのまま」「方言のまま」の地域の文化遺産である。

### (6) 書籍の刊行

採録した昔話や伝説の記録・公開、保存・継承を目指して書籍を刊行



#### ※【参考】静岡県内公立図書館への配架状況

2014年度	水窪のむかしばなし	20館	2019年度	春野の昔話と伝説	31館
2015年度	みさくぼの民話	33館	2020年度	北遠の災害伝承	19館
2016年度	みさくぼの伝説と昔話	31館	2021年度	春野の山のふしぎな話	33館
2017年度	たつやまの民話	26館	2022年度	春野の民話	33館
2018年度	春野のむかしばなし	33館	2023年度	春野のむかし語り	25館

## 4 研究の成果

### (1) 当初の計画

浜松市天竜区熊地区において採録調査を実施。採録した昔話は「方言のまま」「語り口調のまま」に翻字・記録する。伝承地域の解説を書き添え、書籍として刊行する。

### (2) 実際の内容

A（予定どおり）

### (3) 実績・成果と課題

令和6年度の成果としてこれまでと同様に書籍を刊行する。

#### 新刊 天竜くんまの昔ばなし

編著：鈴木実咲・滝澤未来・服部奏・廣瀨波貴 監修：二本松康宏

発行元：三弥井書店 発行予定日：2025年3月 A5版並製170頁 予定価格1,200円（税別）

### (4) 今後の改善点や対策

次年度は天竜区佐久間町城西地区・山香地区での採録調査を予定している。

## 5 課題提出者・地域への提言

熊地区における民間口承文化財（昔話や伝説）は語り手たちの高齢化と急速な過疎化によって、いまや風前の灯火というべき状況にある。本来、民話は世代を超えた地域文化の継承のためのコミュニケーション・ツールである。地域に伝承された伝説や家庭に語り継がれた民話を地域文化の一つとして継承して欲しい。

## 6 課題提出者・地域からの評価

調査前に地域の方に話を聞いたところ、「昔のことはわからんやあ」といった声もあり、はたして上手くいくのだろうかという不安もありましたが、皆さんが目を輝かせて楽しそうに話をしている姿を見て安堵しました。これも民間口承文化財を残すために日々努力をされてきた学生の皆さんの想いが伝わったからだと確信しています。地域にとっても人口減少が進む中、今回の記録が「くんま」の財産として後世に伝えられるものになることは嬉しい限りです。何度も足を運び、地域に寄り添いながら調査をされた学生の皆さんに心から感謝申し上げますとともに、「くんま」での話が冊子としてどのように出来上がるのか楽しみにしております。

浜松市天竜区熊ふれあいセンター センター長 大橋昌秀様より

天竜区水窪町、龍山町、春野町の調査を経て、今年度から天竜区熊地区の調査に入れ、地域の方も当初は少し不安があったようでしたが、二本松教授の地域における民話を伝承・継承しなければならない文化財保護を思う強い気持ちがありました。そして、学生の皆さんが熱心に取り組む姿勢、相手の方に対してやさしい言葉遣いや丁寧な対応により、地域の方も大勢の方がご協力くださいました。調査を進める中で地域の方ととても仲良くお話されるようになり、学生と地域の方が笑顔でお話されている姿を微笑ましく拝見しました。地域にとっても意義がある調査をしていただいたことについてゼミの学生の皆さんに心より感謝申し上げます。

浜松市天竜区まちづくり推進課 課長補佐 田辺義幸様より